

ホームページへの掲載	
7月13日	掲載

## 岐阜県立岐南工業高等学校

学校長 古田 憲司

学校住所 岐阜市本荘 3456-19

電話 058-271-3151

- 1 会議の名称** 岐阜県立岐南工業高等学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成**
- |     |        |                 |
|-----|--------|-----------------|
| 委員  | 大川 勝徳  | 本荘中ノ町自治会長       |
|     | 大原 早苗  | 元PTA役員          |
|     | 圖師 光一  | 元PTA会長          |
|     | 正村 美里  | 岐阜県美術館 副館長兼学芸部長 |
|     | 山口 禎一郎 | 山口鋼業株式会社 専務取締役  |
|     |        | (委員名は五十音順)      |
| 学校側 | 古田 憲司  | 校長              |
|     | 木下 哲治  | 事務長             |
|     | 土田 公成  | 教頭              |
|     | 藤原 竹志  | 教諭 (教務主任)       |
|     | 大和谷 淳  | 教諭 (生徒指導主事)     |
|     | 長瀬 舟治  | 教諭 (進路指導主事)     |
|     | 東松 宏明  | 教諭 (工業部長)       |
- 3 会議の目的** 学校運営・教育内容等について地域社会や保護者等から幅広く意見を聞き、その支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催** 平成29年6月19日(月) 午前9時40分～午前11時40分  
岐南工業高等学校 校長室と各実習室「機械実習(機械科)・課題研究(土木科)」  
委員5人と学校側7人が出席
- 5 会議の概要**
- 評議員委嘱
  - 授業参観
  - 本校教育活動の説明
  - 意見交換・質疑・提言
- (1) 校長挨拶
  - (2) 授業参観 機械実習(機械科2年)・課題研究(土木科3年)
  - (3) 出席者自己紹介
  - (4) 本校教育活動説明  
(教務部)

本校の生徒は、学力層に大きな幅があります。それらの生徒たちに対して、毎朝10分間の朝学習での基礎学力の向上、大学の工学部進学希望者に対応した理数コース、難易度の高い大学や大手企業の企業学園に対応した特進クラス、基礎学力が定着していない生徒に対しての学び直しクラスなど、多くの学びの場を設置し生徒をサポートしています。

先生方は積極的にICT機器を活用してコミュニケーション能力を向上させる、協働学習授業をおこなっています。また、成績優秀な生徒には、終業式に本校の校訓「創意実践」から名付けられた創実賞で表彰しています。

学校のホームページを積極的に更新しています。評議委員の皆様にも学校の様子をホームページでもご覧ください。

(生徒指導部)

今年度の生徒指導部の標語は、「時を守り 身をただし 元気にあいさつ」です。今年度は、「1日の遅刻者数 全校で3人以内 年間の遅刻者総数600人以内」を目標に、遅刻指導に力を入れています。具体的には、毎月0のつく日に「遅刻ゼロ」運動を行っています。昨年度の同時期と比較し遅刻者数が半数と激減しています。

今年度より教室にモバイルフォンの保管ロッカーを設置して、「校舎内は使用禁止」「始業前に教室の保管庫に預ける」ようにしました。その結果、生徒間のコミュニケーション時間が増えているように感じています。

MSリーダーズの活動は、近所の交差点での交通安全の啓発運動を、今年度より回数を増やして行う予定です。

(進路指導部)

教務部、生徒指導部と協力した出口指導を行っています。昨年度の求人倍率は9.2倍でした。卒業生の73%が就職し、その内70%が県内就職でした。しかし、求人数が大幅に増加したのと、保護者の意見が大きく影響し、例年、就職する地元企業に紹介しきれない状況でした。また、進学者の多くが、一般公募推薦入試・指定校推薦・スポーツ推薦で進学しました。国公立も継続して合格しました。

今年度の卒業予定者は300名で、その内209名が就職希望者です。今後は、企業・大学・地域の外部の力を生かして、生徒の進路実現に向けた取り組みを行い、生徒の能力に合ったきめ細かい進路指導を進めます。

(工業部)

工業部は、全校体制で資格取得の指導を行い独自の表彰規定で、資格取得を表彰しています。また、各種大会、小中学校や外部団体へのものづくりに関する出前授業など生徒の活躍の場をバックアップしています。さらに、岐阜市科学館のイベントにも積極的に参加し、異年齢との交流を通してコミュニケーション能力の向上を図っています。

各学科には、研究会があり、多くの大会に参加しています。この夏休みには、土木科が「土木系学生によるコンクリートカヌー大会」に、自動車科は愛知県名古屋市で実施される「全国若年者ものづくり競技大会」に参加します。

(5) 意見交換・質疑・提言

(意見1)

生徒の自転車運転マナーについて、県警など依頼して基本的なマナー、交通法規たとえば自転車が車道を走ることを徹底するような法律に関する講話など、年に一回は行ったほうが良い。

出口指導のデータは出ているが、途中で退学した生徒のデータが出ていない。退学者や就職者、大学卒業後の追跡調査を3年に1度ぐらいはすべきである。職業高校から大学に入学してきた生徒は、学力がついていけなく途中でやめてしまうことが多い。この追跡調査で、高校の教育の成果を検討できるのではないか。

(校長)

自転車事故が多いので、ことあるごとに生徒に対して啓発をしています。県警の指導を含めたマナーに関しては検討します。高架下の危険個所に関しては、通学経路も考慮して考えていきたい。

追跡調査の件に関しては、各学科が就職・進学後の離職調査を行っているので退学者数・離職者数をまとめ進路指導のマッチングを考えていきたい。大学入学後に退学した生徒もいます。だからこそ、大学に入学した後の学力保証を含めた指導をしています。

(意見2)

スマホ、自転車通学、遅刻の問題は、母親として同じように心配していたことです。生徒は、自転車の運転技術に関して自己能力を過信しているので心配です。事故を起こしたことによって、被害者の生活の変化や自分の家庭がどのように崩壊していくかのような、精神的に訴えるような指導が効果あると思います。また、遅刻の問題は、家庭の問題や習慣性といった問題があります。個別指導が大切です。遅刻によって自分自身の一日の生活にどのように影響するか等の指導が大切です。

(意見3)

スマホの預かり指導が一番いいと思います。一時期、ポケモンが流行った時はこのあたり周辺でもスマホに関するマナーについて心配になったこともありました。

(意見4)

学力の幅広い生徒に対して、きめ細かい個人指導がなされていて、進学校と違うと感じました。この指導方法は対外的にも宣伝して頂きたいと思います。

(意見5)

学校全体の印象としては、色々な切り口から生徒の学力指導、ものづくり指導がなされており、興味を持ったことに対して手厚く、かつバランスよく指導しており特徴的です。実践力をどのような付けさせるのかを徹底して実践しており、例えば、先ほど授業参観で拝見した橋やジオラマ造る具体的な手作業の中から、生徒の興味を引き出しています。これが、就職・進学に繋がっていくのだと感じました。学習の基本は、確かな学力とものづくり産業を担う人材になっています。したがって、ものづくりの楽しさを自立して興味が沸くようなものにし、それをクローズアップすることで生徒の可能性がもっと引き出せると思います。

(意見6)

工作機械を実際に扱う上で、安全についてどれだけ自覚するかを、実践から身につけることが大切です。事故が自分の身にどのように降りかかってくるのか、生活におけるストレス、社会的なハンディキャップなど具体的なことを例に挙げるのがよいと思います。例えば、自転車事故が自分の身にどのように、どれだけ（補償）降りかかってくるのか、具体的にイメージさせることが、生徒の自立と自覚に繋がります。指導を手厚くすることで、生徒が自らを抑制することになります。学校以外の専門分野の方において、学力・安全面・コミュニケーションなど、実際に総合的に体感させることが生徒の育成となります。

(意見7)

もの作りが好きな生徒ですから、学校そのものを教材としてほしい。例えば、学校の耐震補強をどのようにしたらよいか、学校を魅力的に発信するにはどのようなデザインにしたらよいかなど、学校への愛着も育つような取り組みをしてほしい。

(意見8)

人間の多様化の時代である、変わった生徒への温かい目があると良い。今の大学はそのような面にも手厚い。今後、コミュニケーションを取れない生徒も増えてくる、そのような生徒のケアもしてほしい。

(意見9)

自転車事故に関する資料を提供したい。リアルな資料も提供できます。

(校長)

先般も損保の方に講話をしていただいた。生徒は、真剣に聞いていた。色々な指導方法を活用して、生徒に指導していきたい。

(生徒指導部)

以前は、警察の方の法律やルールの話が主流であった。ここ数年、法的な話と具体的な話が主流となっています。本校も、スタントマン等の実演を取り入れた講話を実施しました。

(意見10)

生徒にとって、先生の影響は大きい。進路を決める時だけでなく進学・就職後も卒業生に、温かい声をかけていただいてありがたい。

(意見11)

生徒は話せばわかると思うので、生徒と向き合って話をする指導をしてほしい。

## 6 会議のまとめ

機械科の実習や土木科の課題研究を参観していただきました。本校の現状を御理解いただくとともに、本校の活動について御意見をいただきました。特に、自転車マナーや挨拶、遅刻指導等、基本的な生活習慣を身につけさせることが、社会人としての第一歩であることを御示唆いただき、本校の取り組みの方向性について確認することができました。